

4 ローマ法王との外交関係

526 昭和9年4月21日 在満州国義理大使より
広田外務大臣宛(電報)

滿州カトリック教区の中國からの分離および

在吉林同教の回教区代表就任について

セ記、四月十八日付、ガスペイ司教より謝満州国外

交部大臣宛書簡写

法王庁の指示に基づく右措置についての説明

II 四月二十一日付、謝満州国外交部大臣よりガ

スペイ司教宛書簡写

右措置歓迎の意向伝達および便宜供与方申し

出

新 京 4月21日後発
本 省 4月21日後着

第五八四號

滿洲ニ於ケル加特力教々區(總數九)ハ事變後モ從來通り在北平法皇廳使節ノ管轄ニ屬シ居リタル處其ノ後實際上ノ不便ニ鑑ム今回之ヲ事實上獨立セシマルコムナリ將來滿洲

支、北平、吉林、奉天へ轉電セリ
伊へ轉電アリ度ン

(付記)

Vicariat apostolique,
de Kirin

Hsinking le 18 Abril 1934
(avril*)

Son Excellence, Monsieur le Ministre.
Ministère des Affaires Etrangères.

Hsinking.

Monsieur le Ministre,
(honneur)*
J'ai l'honneur de vous informer que le Saint Siège, désirant voir l'Eglise entrer en relations avec Votre

Gouvernement, a daigné me confier "ad tempus" le soin de traiter avec les autorités du Manchukuo des intérêts de l'Eglise Catholique, au nom et au place de tous les Ordinaires des missions situées sur le territoire de l'Empire.

A cette occasion, je serais très heureux de présenter mes hommages à Votre Excellence et vous prie, si la chose est possible, de bien vouloir me faire connaître la date, l'heure et l'endroit où il vous plairade me recevoir.

Daignez agréer,

Monsieur le Ministre,

Avec l'expression de ma haute considération,
l'hommage de mes sentiments très distingués.

F. A. Gaspais, Ev.

Vic Apost

(本文)

羅馬法王任命ノ特派駐満使節「ガスペイ」教主

回答ノ件

國領域内ニ在ル教會ニ關シ滿洲國政府ト何等交渉ヲ要スヘキ案件ヲ生シタル際リハ在吉林同教ニ於テ在滿洲國內全教區ヲ代表シテ之ニ當ラシムルコトトスヘキ旨法皇廳ヨリ示達アリタル趣ニテ同司教ハ二十日外交部大臣ニ面會ノ上右ノ次第通告シタル趣ナルカ右會見後本使ヲ來訪シ以上ノ經緯ヲ通報セリ

昭和9年4月21日 在満州国義理大使より
広田外務大臣宛(電報)

滿洲國吉林及新京教區駐在教主「ガスペイ」臨時滿洲國內各教區及滿洲國政府トノ教務關係事項ニ代理處理スルコト、ナリタル旨御來示ノ次第敬承致候向本月二十一日貴教主閣下當部來訪御會談ヲ得甚タ結構ニ存候貴教ノ教務ニ關シ本大臣ハ我國ノ法律及政綱ノ範圍内ニ於テ便宜ヲ供與スベキリ付右様御了知相成度此段回答得貴意候 敬具

康德元年四月二十一日

滿洲帝國外交部大臣 謝介石

「ガスペイ」教主 閣下

527 昭和9年4月25日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

南京カトリック教区の中國人同教区併置題

ローマ法王の日本に対する對中國、對滿洲國ねむ
ひ赤化防止政策説明の必要性について

本文 昭和八年三月、作成局課不明

上 海 4月25日後発
本 省 4月25日後着

(付 記)

滿洲ニ於ケル羅馬舊教團ニ關スル件

第三四七號(至急)

天主敎宣教師「ジヤキノー」一派ノ内報ニ依レハ天主敎會ニ於テハ南京教區ヲ上海教區ヨリ分離スル豫定トナリ居ル處支那司教ヨリノ聞込ニ依レハ南京司教ニハ白耳義僧院ニ入り居ル陸徵祥(Dom Pierre Celestin Lou Tsentshang)ヲ任命スヘキ說行ハレ居ル由ナルカ右ハアリ得ヘキコトナルモ果シテ實現センカ陸ノ意見ハ南京政府ニ於テ相當重要視セラル可キ一方「カトリック」會ニ對シテモ相當ノ聲望モアリ同人從來ノ滿洲問題評論(本年三月九日附機密公第132號往信御參照)ニ鑑ミ我方ニ取り甚タ不利ナル可ク同問題ニ關スル羅馬法王廳ノ好意的取扱乃至提携(本年二月七日附天羽情報部長宛河相私信御參照)ハ甚タ困難トナル可ク其影響重大ナル可キニ付我方ヨリ至急右說ノ眞偽ヲ問合セ出來得レハ右任命ノ實現ヲ延期又ハ中止セシメラレテハ如何カト述ヘ居レリ又右問合セハ法王廳ニ對シ對滿、對支及赤化防止ニ關スル我方ノ態度ヲ說示スル好機會ナリト思考スル旨附言シ居レル趣ナリ

(口)支那ノ排外運動力外國宣敎團ニ對シ迫害ヲ加ヘ居ルモ國民政府ハ之ヲ看過シ居ルコト
(イ)基督教ハ支那國民性ニ「アッピール」セサル結果トシテ對支宣敎事業カ幾多ノ障害ニ遭遇シ近來益々不振トナリタルコト(英國支那通「ブラント」著「支那」參照)
(乙)最近我國ノ共產黨彈壓カ舊教團ヨリ好感ヲ以テ迎ヘラレタルコト
(丙)常ニ競爭者ノ地位ニ在リタル新敎徒ノ親支的態度ニ對スル反映等ヲ舉ケ得ヘキ處更ニ
(丁)最近米國ニ於テハ新大統領「ルーズヴェルト」カ同國人口ノ三分ノ一弱ヲ占ムル舊教徒ノ支持ヲ受ケ居ルコト
(戊)南歐、南米及中米ノ諸國ハ舊教國タルコト
(己)竝ニ支那ニ於ケル舊教徒ノ保護ハ法皇廳ヨリ佛國政府ノ特權トシテ認メラレ居ルコト
ニ鑑ミ此ノ際法皇廳ト好誼ヲ結フハ時宜ニ適スルモノト認ム

(欄外記入一)(一)滿洲事件ノ發生以來舊教僧侶ハ我國ニ對シ好意ヲ示シ居ル處同敎團ノ組織ニ鑑ミ右ノ如キ同敎僧侶ノ態度ハ法皇廳ノ意嚮ヲ反映スルモノト認メラレ從テ法皇廳ノ態度ハ全世界ニ散在スル三億數千ノ同敎信徒ノ態度ヲ左右スルモノト考ヘラル次第ニシテ我國ノ對外的地位ノ改善ニ利用スル餘地アリト認メラル

(二)我國ト羅馬法皇廳トノ關係ヲ見ルニ大正十年ニハ東宮殿下ノ法皇廳御訪問ノコトアリ、同十一十二年ニハ使節交換ノ議起リ又昭和二年ニハ法皇廳ヨリ山本信次郎少將ヲ通シ在支舊敎徒ノ保護ヲ我國天皇陛下ニ御委任申上度キ希望ヲ披瀝シタルコトアル等ノ友誼關係ヲ有スルニ至レル原ナルカ最近特ニ法皇廳カ親日的態度ヲ有スルニ至ル原因ハ法皇廳カ支那ノ現狀ヲ慊ラストスルト共ニ共產主義ヲ相容レサルニ依ルモノニシテ之ヲ詳言スレバ
(イ)支那ニ於ケル共匪ノ猖獗竝ニ最近ノ露支國交恢復ニヨリ共產主義ト相容レサル法皇廳竝ニ舊教徒カ反支的感情ヲ有スルコト

(欄外記入二)(三)翻テ滿洲ニ於ケル舊教ノ勢力ハ僧侶二百數十名尼僧三百數十名信徒九萬ヲ超エ(別紙乙號參照)^(參照)能ク僻陬ノ地ニ於テモ宣教及福音的事業ニ從ヒ自治社會ヲ構成シ其ノ土民ニ對スル感化ト信望ハ厚キモノアリ而満洲ニ於ケル舊敎會ニ對シ我國ノ斡旋ニ依リ滿洲國ヨリ可然便宜ヲ講スルコトトセハ法皇廳ト日滿兩國トハ好誼ヲ増進スルニ至ルヘシ而シテ之カ爲敎會ノ活動ノ基礎タル土地所有權ノ獲得ニ付便宜ヲ講スルコトシ度ク即チ舊敎會カ一八六年及一八九五年佛支協約(別紙甲號參照)ニ基キ舊敎ノ團體財產ノ爲取得スルコトヲ得ル土地所有權ノ獲得ヲ容易且迅速ナラシムルコトトスレハ獨リ舊教團ノ好意ヲ取付ケ得ルノミナラス從來支那カ諸外國トノ間ニ締結セル條約又ハ協約ハ滿洲國ニ於テ出來得ル限り尊重スル旨ノ聲明ヲ裏書スルコトモナルヘシ仍テ之カ爲

(イ)滿洲國官憲及在滿日本官憲カ法令ノ規定ニ依リ又ハ愛國心ニ基キ或ハ警戒的動機ニ依リ舊敎會ノ土地所有權ノ妨クル如キコトアラハ之ヲ終熄セシムル方法ヲ講ス
(ロ)舊敎會ノ取得セント欲スル土地ノ調査ニ付便宜ヲ供與

シ又必要アラハ該地ノ住民ニ對シ可然宣撫ノ方法ヲ講

ス

(イ) 新京ニ於ケルカ如ク土地ノ賣買ヲ禁止シアル場所ニ於テハ差支ナキ限り舊教會ノ爲除外例ヲ認ムルコト等ヲ考ヘ得ヘシ尚之ト關連シテ

(二) 舊教會ノ取得セル土地ノ上ニ建設セラルヘキ建物ノ材料ハ滿鐵及滿洲國鐵道ニ於テ運賃其他ノ點ニ付便宜ヲ講ス

(三) 教會ニ對スル不法冒瀆行爲ニ關スル司法的處分ヲ勵行スルコトトセハ舊教會ニ對スル好意的「ゼスチュア」

トナリ得ヘシ

尚右舊教會ノ土地所有ニ對スル便宜供與力萬一障害ニ逢着シ所期ノ目的ヲ達セサルトキハ第二案トシテ商租ヲ認ムルコト、スヘシ

此ノ場合四圍ノ狀況ニ依リテハ滿洲及支那ニ於ケル舊教徒ニ對シ保護權ヲ有スル佛國政府ヲシテ滿洲國ヲ承認セシムル様仕向ケルノ餘地アルニ非ヤ

別紙甲號

参考 在支基督教ニ對シ認メラレ居ル土地所有權ニ

關スル件

一、在支基督教會ノ内最初ニ土地所有權ヲ獲タルハ佛國加特力教會ニシテ之ニ關スル佛支間取極左ノ如シ

加特力教會ノ團體財產ニ關スル佛清交換文書(一八六五年二月二十日總理衙門ヨリ「ベルトミー」公使ニ宛テタル公文)

我等ハ加特力教會ノ團體財產ニ關シ左記ノ事項ニ付閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有ス即チ將來佛蘭西國宣教師カ清國々内ニ於テ土地及家屋ヲ購求セムトスルトキハ賣渡人某々(其ノ氏名)ハ賣買證書ヲ作製スルニ當リ其ノ財產カ其ノ地方ノ加特力教々會ノ團體財產ノ一部ト爲サムカ爲ニ賣買セラレタル旨ヲ明記スルト要但シ宣教師又ハ基督教徒ノ氏名ハ之ヲ右證書ニ記入スルノ限ニ在ラス(以下略)

然ルニ往々支那地方官憲ハ右土地賣買ニ干渉スル弊多カリシヲ以テ一八九五年佛支間取極ニ於テ賣主ハ地方官憲ニ賣渡意思ヲ通告シ又ハ許可ヲ請求スルヲ要セストセリ

右佛國加特力教會ニ對シ認メタル不動產權ニ付テハ英國ハ當然之ニ均霑ストノ見解ヲ持シ別段支那ニ對シ深ク交渉スル所ナカリシモ米國ハ一八九七年總理衙門ト交渉シ同年二月十九日附衙門覆牒ニ於テ米國宣教師モ本件ニ關シ佛國宣教師ト同一ノ取扱ヲ受ク可シトノ確言ヲ獲タリ

二、米國ハ更ニ一九〇三年調印ノ米支通商條約第十四條ニ於

テ「米國傳道會社ハ該會社ノ財產トシテ傳道的目的ノ爲帝國內ノ一切ノ地方ニ於テ建物又ハ土地ノ貸借及永代借地ヲ爲シ云々」ト協約シ事實上土地所有權ニ等シキ永代借地權ヲ米國傳道會社ノ爲確保セリ

三、要之上記ノ經緯ニヨリ最惠國待遇ノ諸國ハ支那全領土ニ於テ教會ノ團體財產トシテノミナラス傳道會社ノ名ニ於テ新舊兩教共ニ事實上土地所有權ヲ得ルニ至レリ

(欄外記入一)

昭和八年三月栗山條約局長ノ意見ニ基キ作成シタルモノ

佐久間私案

(欄外記入二)

註 舊教會カ滿洲ニ於ケル土地所有權ノ取得ニ付眞具体的ニ如

何ナル障害ニ逢着シ居ルヤハ不明ナリ

(欄外記入三)

註 下記「ベルトミー」協約ノ正文ハ未タ公式ニ發表セラレタルコトナキモ事實上ハ公然ノ秘密トシテ衆知ノモノナリ

~~~~~

528 昭和9年8月11日

(在京吉澤(清次郎)總領事より  
広田外務大臣宛)

滿州國におけるカトリック教分布の狀況およ

び教區獨立の經緯について

(接受日不明)

昭和九年八月十一日

在京總領事 吉澤 清次郎

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和九年八月十一日附機密第四〇一號在滿大使宛寫送付

件 名

一、全滿加特力教ノ近況報告ノ件

機密第四〇一號

昭和九年八月十一日

在新京總領事 吉澤 清次郎

在滿洲國特命全權大使 菱刈 隆殿

全滿加特力教ノ近況報告ノ件

滿洲國文教部宗教科ノ調査ニ係ル全滿「カトリック」教ノ

分布並ニ普及狀況何等御参考迄別添報告申進ス

本信寫送付先 外務大臣 奉天 吉林 哈爾賓

（別添）  
在滿「カトリック」教ノ近況

### 一、滿洲布教區設置狀況

羅馬「カトリック」教滿洲ニ根據ヲ置キテ布教セルハ今ヨリ約一三〇餘年前時ノ政府ノ壓迫ヨリ逃ルヘク轉々流浪ヲ續ケタル際同教徒八名力現在ノ吉林省長春縣小八家子ヲ安住ノ地トシテ部落ヲ結成、祕カニ信仰ノ法城ヲ守リタルヲ以テ其ノ濫觴トスト稱セラレ小八家子ノ名稱カ當初ノ信教徒ニ因ム地名タルト共ニ其ノ名ハ「カトリック」教村落トシテ夙ニ人口ニ膾炙セラレアル處ナリ

其ノ後西歷一八三八年羅馬法王駐支使節(北京)ハ東三省ヲ支那教區第二區ト定メ奉天ニ教會堂ヲ設ケ佛人ノ宣教

師ヲ派シタルヲ始メトシ同一八九七年吉林同一九〇二年延吉、依蘭、齊々哈爾、四平街等各地ニ布教ノ基地ヲ擴メ之等教會ヲシテ各責任布教區域ヲ定メ教勢擴張ニ努メタル結果現在該地域ノ教徒約十二萬ニ達スルニ至レリ更ニ熱河省ハ支那教區第一區(蒙古區)トシテ西歷一八四〇年西灣子ヲ始メトシ同一八九三年ハ熱河及綏遠ニ同一九二二年寧夏同一九二九年集寧ト教會堂ヲ設置シ一時本地域ノ信徒十四萬ト稱セラルノ盛況ニアリシカ滿洲事變ノ勃發以來地方治安ノ攪亂民心ノ疲弊ハ同教ノ教勢ニモ尠カラサル影響ヲ與ヘ漸次頗勢ニ趨カントスルノ氣運ニ逢着セリ茲ニ於テカ在滿外人同教宣教師ハ之カ勢力挽回策ニ種々腐心シアリタル模様ナルカ之等外人宣教師間ニ於テハ大同二年夏頃ヨリ「滿洲國ノ成立日ニ固クソノ獨立ノ儼然タル實在ヲ否定スヘキ何等ノ理由ナキニ依然中華民國駐在使節ノ羈絆下ニ屬シアルハ官憲ノ注視ヲ受クルノミニシテ將來ノ爲策ヲ得サルモノアリ」トシ奉天ニ羅馬法王廳直屬ノ使役派遣ヲ請ヒ中華民國ヨリ滿洲教區ヲ分離以テ布教上ノ好條件タラシムヘシトノ議興リ羅馬法王廳ニ極力之力實現ヲ運動シアリキ

加フルニ本年三月滿洲國帝政實施ニ刺戟セラレ同月吉林教會管區大司教「ガスペー」ヲシテ日本「カトリック」教ヲ視察セシメタル結果愈々中華民國ヨリ分離獨立スルヲ得策トセルモ派遣使節正式實現ニ關シテハ國際聯盟參加「カトリック」教諸國力滿洲國不承認ノ政策ヲ固持シアルニ鑑ミソノ國際關係ニ影響スル處ヲ虞レ漸定的辨法トシテ列國ニ類例ナキ代表制ヲ執ルニ決シ康德元年四月二十日前記「ガスペー」司教ヲ正式ニ滿洲國代表者トシ中華民國「カトリック」使節ニ對立獨立セシムルコトトシ前述ノ支那教區第一第二區ヲ以テ滿洲布教區ヲ設置シ其ノ國範圍ニ合致セシメ「世人ノ靈魂ヲ救フ「カトリック」教ハ所在地國家元首ヲ仰ク」ト謂フ教義ニ則リ宗教的ニ滿洲國獨立ヲ承認スルノ形式ニ出テ以テ滿洲國政ニ迎合シ布教上有形無形ノ特權ヲ獲得セントセリ而シテ滿洲布教區ハ之ヲ奉天、撫順、四平街、吉林、延吉、依蘭、齊々哈爾、熱河、赤峰ノ九個教會管區ニ分チアリト雖之カ統轄的人格ヲ俱有スル滿洲總本部ト指稱シ得ヘキモノナク各教會管區ハ各別ニ羅馬法王廳ニ直屬シアリテ單ニ同教宣教師間ノ有力者ニシテ且首都新京ヲ責任區域内ニ

有スル吉林教會管區大司教「ガスペー」ヲシテ外部ニ對スル在滿同教ノ意志表示ヲ代行セシメントスルニ過サルナリ即チ吉林天主教會牧師(司譯)「チャーレ<sup>(チャール)</sup>・レミール<sup>(レミール)</sup>カガスペー」代表ノ地位ニ就キ往訪外人通信員ニ説明シタル處ニ依レバ「各國羅馬法王廳派遣使節ヲ外交官ノ大公使ニ擬セントセンカ同代表ハ領事トモ稱シ得ヘキモノナリ」ト謂フ以テ滿洲帝國ノ存立ヲ認メツツモ尙國際聯盟參加「カトリック」教諸國ノ不承認政策ニ及ホス政治的意義ヲ沫消シ蒙莫タラシメントスル苦肉ノ策タリト窺知セラレ又近來滿洲國來往外人通信員等ノ「ガスペー」ニ同教代表設置ノ經緯茲ニソノ滿洲國觀<sup>(觀)</sup>ヲ聽クヘク之ヲ往訪スル者漸ク繁カラントスルノ傾向ニアリテ列國カ同教ノ對滿態度ヲ政治的關心ヲ以テ重要視アルヤニ看取セラルル亦故ナキニ非スト思料セラル

### 二、「ガスペー」代表ノ狀況

國籍 フランス

住所 吉林省城第二區江沿街二號天主堂内  
居所 新京城内四道街天主堂内

右ハ明治三十七年吉林「カトリック」教會牧師トシテ着任以來三十年間孜々トシテ布教ニ從ヒ信徒並ニ同教宣教師間ノ絶大ナル信望ヲ擔ヒ吉林附近ニ於テ高德惠牧師ト呼ハレ廣ク信徒外一般滿人有識者間ニ其ノ名ヲ知ラルルニ至レリ現在吉林教會管區大司教トシテ大小七十餘教會ヲ牛耳アルノ外前記ノ如ク本年四月一十日「カトリック」教滿洲帝國代表ニ舉ケラレシ以來主トシテ肩書居所ニ在リテ在滿「カトリック」教全般ノ對外部折衝ニヨリ隨時本來ノ所管區タル吉林教會管區内各教會所在地ヲ旅行シ之カ指揮統制ニ任シツツアリ

### 三、各教會管區ノ概況

滿洲布教區ハ前述ノ如ク九個ノ教會管區ニ分チ各教會管區責任宣教師ハ國籍別系統ヲ異ニシ羅馬法王廳ニ直屬スルノ外各本國ノ宗教政策ニ左右セラレ諜報牒略ニ用ヒラレアリト思料セラルモノアルカ滿洲國內ノ信徒約十五萬ト稱セラレ其ノ大部分ハ滿人ナリト雖延吉教會管區及吉林省城ニ於ケル資產別表(省略)ノ如シ

吉林教會管區内海北鎮(黑龍江省海倫縣ニアリ天主教水田ニ依リ知ラル)方面信徒ハ大多數朝鮮人ニテ占メラレ

其ノ他ハ白系露人ヲ主トスル外人及若干ノ日本人ヲ抱含シアルモ目下數字的ニ調査セラレタル文獻ハ當該教會關係者間ニ見出シ能ハサルモ概要別紙(省略)ノ通り  
四、吉林教會管區ノ狀況  
吉林教會管區ハ佛系ニ屬シ前記「ガスペー」大司教ノ牛耳ル處ニシテ吉林、新京、哈市及吉林省永吉縣、扶餘縣、長嶺縣、阿城縣、賓縣、盤石縣、樺甸縣、伊通縣、農安縣、榆樹縣、德惠縣、九臺縣、雙城縣、五常縣並黑龍江省海倫縣、綏化縣、呼蘭縣、巴彥縣(爾餘ノ地方ハ齊々哈爾教會管區)ノ一省三市十八縣ニ跨リ教會大小七十餘修道院二、教義小學校等多數ヲ有シ宣教師佛人「ガスペー」以下十九名滿人二十八名信徒約二萬一千餘人ヲ有シアリ之ヲ表示セルモノ別紙(省略)ノ如シ

### 五、其ノ他

天主教所有財產ハ有名ナル海北鎮ノ水田其ノ他莫大ナル額ニ達スルモノト思料セラレ其ノ一班ヲ窺フニ足ルヘキ

吉林省城ニ於ケル資產別表(省略)ノ如シ

~~~~~

529 昭和9年12月28日 広田外務大臣より

在伊国杉村大使宛(電報)

在カナダ徳川公使

がない旨説明

付記 作成日、作成局課不明

「奄美大島ニ於ケル加特利教壓迫問題」

本省 12月28日後4時発

合第一三三二號

本年十月以來鹿兒島縣奄美大島ニ於ケル軍官憲ノ國防思想啓發ニ伴ヒ一般島民ニ依リ從來同地ニ於テ「カトリック」布教ニ從事シ居タル加奈陀人宣教師並島民信者等ノ行爲糾弾セラレ信者非信者間ノ軋轢激化ノ結果遂ニ宣教師ハ同島退去ヲ余儀ナクセラレタリ

在本邦羅馬法皇使節ヨリハ十一月中旬以來數次ニ亘リ本件ニ關シ注意ヲ喚起シ來リ本省ニ於テモ軍部ト協議ノ上本事

件ノ對外影響ニモ鑑ミ慎重對策ヲ講シ信教ノ自由ニ干涉スルカ如キコトナキ様中央軍部ヨリ現地軍官憲ニ指令シタル次第ナル處十二月十九日同島龍鄉村ニ於テハ教會堂ヲ破壊

(付記)

奄美大島ニ於ケル加特利教壓迫問題

(一)十一月十五日附大臣宛私信ヲ以テ在京羅馬法皇廳使節ヨリ

奄美大島ニ於テハ五十年來加特利教ノ傳道行ハレ居ル
處一九二二年從來ノ佛國人宣教師ニ代リ加奈陀「フラ
ンシスカン」宣教師ノ教區トナルヤ種々ノ困難發生シ
來リ殊ニ一宣教師ニ對スル「スペイ」嫌疑事件發生以
後加特利教ニ對スル壓迫ハ深(鉤)ヲ加ヘタリ。全島ガ軍
事上ノ要地タルニ鑑ミ外人宣教師ノ存在ハ種々ノ困難
アルベシトテ對策考慮中ナリシ處去ル十月中旬ヨリ右
壓迫ハ激化シ信者ヲシテ宣教師ノ存在ヲ苦痛ト感ゼシ
ムル程度トナリ二名ノ宣教師ハ既ニ退去セリ

トテ右ニ關スル十一月十日ノ大阪朝日記事ヲ送付越スト
共ニ本事件ノ遺憾ナル事態ヲ惹起スペキ事ヲ述べ大臣ノ
好意的考慮ヲ婉曲ニ求メ來レリ

〔二〕依テ吉田歐二課長ハ依命十一月十六日陸軍省軍務局原中
佐ヲ往訪陸軍側ノ説明ヲ求メタルガ全中佐ハ

一九二二年以後佛人ニ代リ加奈陀人宣教師駐在スルニ
及ビ種々不都合アリ要塞司令部ニテハ該地ノ實情斯程
惡化シ居レリトハ氣付カサリシモ先般司令官巡視ノ結果
果棄置キ難キヲ發見國家思想普及ニ努力セル處村民モ
自覺シ其結果反カトリック運動トナリ終ニ宣教師退去

ノ決議ヲナスニ至レリ軍部トシテハ加教壓迫ノ意ナク
一九二二年以前ノ如キ布教ナリシナラバ今次事態ハ發
生セザリシモノニシテ今回ノ決議ハ一ハ加奈陀人宣教
師ノ布教方法及其行動當ヲ得ザリシコト一ハ村民ノ國
家思想ニ目醒メタルニ依ル、從テ軍部トシテモ從前ノ
如キ布教ナルニ於テハ異義ナキ次第ナルモ村民ノ意向
斯ノ如ク改變セラレタ(マ)以上當分布教ノ見込ナカル
ベシ

トノ趣旨ヲ述ベタリ

〔三〕十一月十七日在京羅馬法皇廳使節ハ更ニ大臣宛書翰ヲ以
テ大島ニ於ケル加教徒ノ非行ニ關スル現地ヨリノ報告書
シ送付越シ本件彈壓ガ全鹿兒島縣下ニ波及スルヲ憂慮ス
ル旨申越セリ

〔四〕陸軍省ヨリハ嚮ニ原中佐ノ吉田課長ニ對スル約ニ基キ奄
美大島ニ於ケル加教徒ノ非行ニ關スル現地ヨリノ報告書
送付越セリ

〔五〕十二月十八日在京羅馬法王使節ハ更ニ大臣宛書翰ヲ以テ
奄美大島ニ於テハ宣教師退去ヲ命セラレ憲法上ノ保障
ニ不拘信仰ノ自由ナク又邦人宣教師田口芳五郎ヲ派遣

セントシタルモ阻止セラレタリ右ハ現地軍部官憲ノ行
動ニ依ルモノナルベキモ至急善後策ヲ講ジラレタクス
ル事件ガ外國ニ傳ハルニ於テハ全ク日本ノ爲憂慮スペ
キコトトナルベシ

トノ趣旨ヲ申越セリ

〔六〕超ヘテ十一月二十日羅馬教皇使節祕書土井辰雄出淵大使
ノ照(鉤)介ニテ東鄉歐亞局長ヲ來訪シタルニ付吉田歐二課長
代テ面會シタル處十二月十八日附大臣宛教皇使廳來信ト
同趣旨ヲ述ヘ尙現地ニ派遣セシ田口神父ハ法王廳ガ滿洲
國ヲ宗教上獨立國トシテ承認セシ時ヨリ滿洲ニ派遣セラ
レ同地ニ於テハ軍部トモ頗ル良好關係ニアリタル人物ニ
シテ今回滿洲國ヨリ上京ノ途中ニ於テ大島ヘ赴ク様命セ
ラレタルモノナル處熊本ニテ第六師團司令部ヲ訪問セシ
際參謀ヨリ現地ニ赴クニハ中央軍部ヨリノ照(鉤)介狀ヲ要ス
ル旨申渡サレタル由ナルニ付テハ軍部照(鉤)介狀入手方斡旋
アリ度旨ヲ述ベタリ

尙土井氏ハ大島信徒ヨリ東京知人ノ許ヘ通報越シタル次
ノ如キ斷片的情報ヲ示シタリ

角和少佐(輜重兵)「通信原文ノママ」「去ル二日大熊デ

角和少佐ハ十數年來ノフランシスコ會ノ渡來ノ由來ヨ
リ彼等神々達ノ布教狀況、國體ニ合セザル信仰生活ノ
實際等新聞ニ從來掲載セラレタル事ハ皆事實ナリト列

擧シテ一々批判セリ(今明日中ニ町民カ背教ヲ迫ツテ
來ル筈デス)。

内務省、外務省ガ如何ニアラウトモ憲法ガ如何ニアツ
テモ軍部ノ方デハ、此ノ際徹底的ニカトリツク撲滅ニ
努力スル決心デ既ニ我々ノ行動ハ大命ニヨリ終始スル
モノナリ、裁判モ警察^(セイガ)セ我々ノ意中ト同方向ナリト極
言シテ居リマス。

五・一五事件ノ如キハ、何度デモ起ルマタ何度デモ起
シテ見セルト明言シテル角和少佐ガ居ルノデ、所謂憂
國ノ士ガ強ガルノデ危険デス

一昨日(十日)ニハ突然大熊ニ、午前九時司令官、角和
少佐、山本憲兵出張、字民全部海岸近クノ集會場ニ集
合セシメ、信者ト一般庶トノ區別ヲ作り其ノ面前ニテ
國防ニ關スル講話ヲナシ、次デ字民ヲ代表シテ區長ガ
講演スルニハ「カトリック信者ガ大熊ニ居ルバカリニ
從來村ノ平和ガ亂レテ居ルカラ非常時ノ今日何卒是非
背教スル事ヲ司令官、角和少佐殿ノ前ニテ誓へ然ラザ
レバ殺スジ」ト迫マラレ事ノ余リニ突然ナノニ信者ハ
驚キ仕方ナク不本意乍ラ信者全部背教ヲ誓ヒコンタツ

新本其ノ他ハ青年等ガ多數信者宅ニ侵入シテブンドリ
且ツ憲兵ニ手渡シタル由、女子供ハ勿論大人マデモ泣
キ叫ビ、村ノ入口ハ嚴重ニ青年等ガ看視シテ信者ノ名
瀬ニ注進スルヲ防ギタル爲メ夜ノ十時頃マデ確實ナル
状報判明セズ十時ニ至リヤット七八名逃レ自動車借切
リデ泣イテ教會ニ逃レ來ル。(司令官等ハ、村ノ人々
ノ自發的ニ爲シタルヲ只見物的ニ立チ會ツタ位ノ態度
デ責任ヲ回逃ス)名瀬局デハ信者ノ局員ニ對シテ局長
カラ「當地ノヤウニ騒ガシイ土地ハ君等モ困ルダラウ
カラ何處カ靜カナ所ヘ行カナイカ又ハ非常時ダカラ轉
向ヲシタラ如何」ト申渡シタ由。
何時殺サレルカワカリマゼン、是ガ最後ニナルカモワ
カリマゼン、命ガアレバマタ狀況報告シマセウ。
笠利ハ八十戸位ノ内信者十二三戸ガ背教ヲ強ヒラレテ
署名捺印シタヤウデス殘リノ信者ハ悲壯ナル決心ヲシ
カラ何處カ靜カナ所ヘ行カナイカ又ハ非常時ダカラ轉
向ヲシタラ如何」ト申渡シタ由。

(+)十二月二十一日歐ニ與謝野事務官陸軍省軍務局久野村中
佐ヲ往訪全中佐及原中佐ニ對シ在京羅馬法皇使節ヨリ注
意喚起アリタル次第ヲ述ベ其ノ後ノ現地實情及ビ本件ニ
テ居リ實ニ氣ノ毒デス

關スル軍ノ方針ニ付質シタルニ兩中佐ハ
第六師團側ト打合ノ結果
(イ)大島ニ於ケル加教信者中ニハ國体觀念ニ背馳セル非行
アリタルガ今後ハ國体觀念ノ普及發揚ニ努ムルコト
(ロ)加教信仰ノ自由ニ付テハ干涉スベキ限ニ非ズ
トノ方針ヲ以テ事ニ處シ居リ特ニ信仰ノ自由ニ關シテ
ハ加教信仰ヲ禁ズル必要ナク又宗教ニ關スル事柄ハ慎
重事ニ當ルベク徒ニ小ナル信者ノ非行等ヲ捉ヘ問題ト
ナスハ復雜ナル事態ヲ惹起スル所以ナリトノ趣旨ヲ出
先ニ訓令シ居レリ加教信者ノ改宗ヲ強制スルガ如キ事
アリ得ベカラズ」ト述べ又日本人宣教師渡島問題ニ付
テハ「第六師團側ニテ日本人宣教師ノ渡航ヲ禁ズル權
限ナク本省ノ許可ヲ要スト云フガ如キ事モ考ヘラレズ、
但現地ノ事情ニ照シ全人ノ渡航ガ好マシカラズト認メ
此ノ旨ヲ申渡シタルヤモ知レズ、現在ノ事情ニテハ一
宣教師ノ入島モ何等役立タズ反テ紛糾ヲ生ズベシ」ト
述べタリ

(九)全月二十二日午前久野村中佐ヨリ與謝野事務官宛左ノ趣

旨ヲ電話ニテ申越セリ

(八)十二月二十二日羅馬教皇使節祕書土井氏重テ吉田課長ヲ
來訪セルニ付吉田ヨリ前記與謝野事務官ノ軍部訪問ノ結果

「今日奄美大島ヨリ左記情報電報アリタリ

「平素「カトリック」教ニ快カラサリシ大島郡龍郷村

住民ハ先ニ閉鎖セラレタル教會ヲ日障リトシ通行毎ニ板、壁ノ小破壊ヲ行ヒ來レルカ十九日大舉シテ大破壊ヲ行ヘリ右ハ青年ノ血氣ニ逸リタルモノノ如シ」

事情以上ノ如ク現地ノ事情ハ相當緊張シ居ルヲ以テ昨日御話アリタル日本人宣教師ノ件ニ關シテハ上局トモ協議シタルカ軍トシテハ何等同人ノ渡航ヲ止ムル權限ナキモ治安維持及ヒ警備ノ見地ヨリ同人ノ渡航カ如何ナル事態ヲ惹起スルヤモ計ラレサルニ依リ之ヲ中止セシメタシ云々」右久野村中佐ヨリ與謝野事務官ニ電話アリタル件ニ關シ直ニ吉田歐二課長ヨリ原中佐ニ對シ

斯種事件ノ發生ハ我國ノ國際的立場ヲ不利ニ導クノミナラス諸外國ニ於ケル惡宣傳ノ材料ニ用ヒラル惧アリ今回ノ事件ハ既ニ發生セルコトニテ如何トモ致方ナキモ嚮後斯ル事件ヲ發生セシメサル様適當ナル取締方法ヲ講スル様致度軍部トシテ直接村民ニ對シ兎角ノ指圖ヲ爲スヲ得ストスルモ現地ニ於ケル軍部官憲ニ於テ個人トシテ軍人分會青年會其他村民ニ對シ今次ノ行爲ノ不穩當ナリシコトヲ諭シ爾今斯ル行爲ヲ繰返ササル様注意ヲ促スコトハ出來得ヘシト信スル

旨述ヘタルニ原中佐ハ右ハ頗ル考慮シ得ルコトニ付早速何分ノ處置ヲ爲スヘシト述ヘタリ

(+) 全一二二日午后吉田歐亞第一課長内務省警保局ニ相川保安課長ヲ往訪、本件ニ關スル從來ノ經緯ヲ詳細説明シ

『現地ニ於ケル事態ハ相當急迫セルモノアルヤニ承知セラルニ付テハ早急適宜ノ處置ヲ執ラレ度キ』旨申入レタル處相川課長ハ『未ダ當方ニ於テハ從來ノ陸軍側情報ト略同様ノモノ以外現地ニ於ケル教會破壊等ノ報告ニハ接シ居ラサルモ御話ニ依レハ事態極メテ重大ナルモノノ如ク想像セラルニ依リ現地ニ於ケル教會、教徒ノ生命財產ノ保護並ニ村民ノ暴力行爲取締リ等ニ關シ急速ニ鹿兒島縣知事ニ電訓ス可シ』ト答ヘタリ

依テ吉田課長ヨリ『此種事件ハ極メテ傳播性ヲ有スルモノナルニ依リ更ニ各地ニ於テ勃發スルカ如キ事無キ様事前ニ急速適宜ノ處置ヲ執ラレンコトヲ切望ニ堪エズ』ト申添エ置キタリ

尙吉田課長ハ警保局當該係官タル水池事務官ニ面會全様ノ申入レヲナシタルニ全事務官ハ『先般鹿兒島縣警察部特高課長上京ノ際本件ニ關シ充分ナル取締リニ盡力スル

様申付置キタルガ御話ノ通リトスレバ事態重大ナリト認

メラルニ依リ遲滯無ク處置ヲ執ルベシ』ト答エタリ

(+) 前記奄美大島ニ於ケル教會破壊事件ニ關シ國民新聞二十一日夕刊及二十二日全紙朝刊ハ憲兵隊入電ニ依ル趣ヲ以テ大々的報道ヲナセルヲ以テ二十四日與謝野事務官久野村中佐ヲ往訪其ノ經緯ヲ質シタルニ全中佐及原中佐ハ「只今憲兵隊ニ問合セタルニ右ハ國民新聞記者ガ得タル「ニュース」ヲ持チテ憲兵隊ニ來リ確メタルモノニシテ決シテ憲兵隊ノ發表セルモノニ非ザルコト明トナレリ先日御話セル通り軍部トシテ何事ヲモ企テ居ルニ非ザルヲ以テ記事掲載禁止ノ處分ヲ執ルコトハ却テ疑惑ヲ招クト信ジ何等處分ヲ執ラザリン次第ナリ』ト釋明シタル上「現地ニテ村民間ニ紛擾アルモ右ハ決シテ軍ノ行動ニ非ズ、全島ニ於ケル軍官憲ハ司令官及角和少佐ニシテ憲兵等モ數名ニ過ギズ決シテ直接行動等執リ得ル譯ナク加教信者ニ非ル村民ノ行動ナリト認メラルモ何レ鎮靜スベシト認メ居レリ』ト述ベタリ

(+) 國民新聞掲載ノ本件事項ニ付二十四日朝吉田歐亞第二課長ヨリ内務省警保局水池事務官ニ電話シタルニ全事務官

530 昭和9年12月28日 広田外務大臣より
在本邦マレラローマ法王庁使節宛

奄美大島カトリック教圧迫事件の事情説明および

日本人宣教師派遣差控の必要性について

付記一 昭和十年二月十六日付 在本邦マントラローマ法王使節より広田外務大臣宛書簡
右事件に關し各国から法王使節への問合せ増加
と奄美大島への日本人宣教師至急派遣の必要性について

II 作成日 作成局課不明
「奄美大島反カトリック教事件」

昭和九年十一月二十八日

外務大臣 廣田 弘毅

在本邦

マントラ ローマ法皇廳使節殿

奄美大島ニ於ケル加特利教壓迫問題ノ件

以書翰啓上致候。陳者十二月十八日附貴翰ヲ以テ奄美大島ニ於ケル加特利教問題ニ關シ御申越ノ趣敬承致候。本件ニ付テハ嚮二十一月十五日附及全十七日附貴翰ヲ以テ御申越相成タル際直ニ陸軍當局トモ聯絡シ善後措置ニ努メタル次第ニ有之候。

第三ニ有之候。

陸軍當局ノ有スル材料ニ依レバ奄美大島カ一九一二年加奈陀「フランシスカン」宣教師ノ教區トナリテ以來宣教師ノ行動、布教方法等ニ付不當ナル點アルノミナラズ島民信者中ニ國家觀念ニ背馳セル思想ヲ有スルモノアルコト發見セラレタルカ最近加教信者中改宗者續出シ竟ニ宣教師ノ退去ヲ見タル趣ニ有之候。

乍然當方取調ニ依レバ右ノ如キ事態ヲ惹起セル所以ハ從來常ニ感情ノ阻隔セル島民中ノ信者、非信者ノ抗爭ニ基クモノニシテ日本官憲ニ於テハ苟モ信教ノ自由ニ干涉セントスルカ如キ意図毫末モ無之、右ノ方針ハ中央軍部ヨリ現地軍官憲ニモ通達セル趣ニ有之候。

然ルニ一部島民カ十一月十九日閉鎖中ノ秋名教會堂ヲ破損セシムルノ暴舉ニ出デタリトノ意外ナル報道ニ接シタルハ甚ダ遺憾トスル處ニシテ内務當局ニ確メタル處ニ依レバ全教會ノ受ケタル損害ハ約三百圓程度ナルガ警察ニ於テハ直ニ暴行容疑者ヲ検舉目下取調中ニシテ今後島民ニ對スル生命財產ノ保護並ニ暴行取締ニハ極力努ムル方針ニテ今回ノ事件ハ警察力手薄ナル地方ノ出來事トテ乍遺憾事前ニ防止シ得ザリシモノト認メラレ候。

以上ノ事實ニ依リ閣下ハ田下大島々民力異常ナル昂奮狀態ニ在ル事ヲ御了知相成タルベキ處内務當局ニ於テモ極力警察上措置ヲ執ルノ方針ナルヲ以テ不遠常態ニ復スくキヤノト被存候。

但現在ノ如キ狀態ニ於テ御申越ハ田口眞教師ヲ派遣セハルハニ於テモ反テ紛擾ヲ新ニスル虞レナキニ非ルヲ以テ寧口之ヲ差控ヘラレタキ意図ニシテ右ハ実情リ旨シ口ムヲ得ザル次第ト思考セハル、ニ付右様御承知相成度候。

右回答旁本大臣ハ茲ニ重ねテ貌トニ向テ敬意ヲ表シ候

敬職

(文附)

March 16, 1935

Your Excellency:

In accordance with the gracious advice tendered in your confidential communication of December 28th, 1934, Protocol No.8, the situation in Oshima has been carefully followed by me, and no step whatsoever was taken on my part or on the part of other ecclesiastics which

might even indirectly aggravate the situation. In spite of the many pleas made by the Catholics in Oshima, and also in spite of the insistence of Japanese Catholics in other parts of the Empire, the departure of a Japanese priest to the island has been delayed.

In the meantime, inaccurate reports taken from the Japanese Press have been circulated in foreign countries. As a result, inquiries have come repeatedly from countries in North and South America to both the Holy See and this Delegation. The Holy See, fully informed by me of the entire state of affairs, has up to the present maintained complete silence in accordance with the policy of this Delegation. However, lest these demands become such that this attitude cannot be maintained any longer, it is to be desired that the Japanese Catholics shall again be enjoying the spiritual ministrations of a Catholic priest.

All of the above mentioned developments have been discussed by my Secretary with Mr. Yoshida of the For-

eign Office.

In view of your kind efforts, and also because of the insistent demands of the clergy and Catholics, the time for sending a Japanese priest to Oshima can hardly be delayed any longer. The Reverend Father, who is to be sent, was in Tokyo last month and while here conferred with various authorities concerning his future plans. It is our desire that his arrival in Oshima be sometime prior to the Feast of Easter which occurs on April 21st. At that time it will be my pleasure to inform the Holy See that the Catholics on the island of Oshima are once again being ministered to in a spiritual way.

I take this occasion to tender to Your Excellency the renewed assurance of my high consideration and esteem.

Paul Marella
Titular Archbishop of Doclea,
Delegate Apostolic to Nippon.

His Excellency

Mr. Koki Hirota,
Minister for Foreign Affairs,
Tokyo.

(社記II)

奄美大島反カトリック教事件

三月廿十日午後羅馬法皇廳使節館土居^(井)祕書吉田歐^(一)課長ヲ來訪法皇廳使節ノ命ニ依ル趣ヲ以テ三月十六日附使節ノ廣田大臣ニ宛テタル「ハーメ」ノ補足説明トシテ大要左ノ通語レリ

「本邦舊教內部事情

イ、各地ニ於ケル舊教徒殊ニ熊本、宮崎、佐賀、長崎ノ諸縣竝四國方面ノ信徒ハ大島事件ニ對スル使節ノ慎重ナル態度ニ嫌ラス之ヲ以テ不熱心ニ出ツルモノト爲シ不滿ノ意ヲ表シ來ルモノ少ナカラズ

ロ、又大島事件ハ全國的ニ舊教徒ニ不安危慮ノ念ヲ興ヘタルモノノ如ク其將來ニ對スル不安ニ付使節ニ訴ヘ來ルモノ多數アリ

ハ、邦人司祭等ハ大島ニ於テ外人司祭等カ信徒ノ迫害セラルルヲ見乍ラ之ヲ見棄テ島ヲ去リタル事實ヲ非難シ同地殘留信徒救濟ノ爲挺身渡航シ度申出ツル者少ナカラズ

「現地ニ於ケル情勢

イ、其後大島ニ於テ兩三次熊本師團派遣將校ノ軍事講演アリシモ何等舊教攻擊ノ言辭ナク從前ニ比シ大ナル相異アリタリ

ロ、秋名ニ於ケル舊教々會堂破壊暴動ノ首謀者等ハ夫々處罰セラレタル趣ナリ

ハ、先般名瀨ニ於ケル大島小學校々長會議ノ席上ニ於テ舊教排斥運動ニ積極的ニ加擔セル校長ハ教育者トシテ妥當ナラサル態度ヲトレリト非難ヲ受ケタリ

II、大島ニ於ケル舊教々會ニ屬スル一切ノ財產ニ付田ト之ヲ管理スル者ナキ狀態ニアリ此儘ニ放置スルコトヲ得ス

III、海外ニ於ケル情勢

イ、先般來屢次ノ談話ノ通各方面舊教徒並新聞、通信等ヨリ事實ノ真相問合セ越スト共ニ發表方要請シ來リ使